

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072400320		
法人名	社会福祉法人明筑会		
事業所名	グループホームひかり		
所在地	福岡県筑後市尾島510番地1 (電話)0942-53-0040		
自己評価作成日	令和5年10月20日	評価結果確定日	令和6年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・ 広大な敷地を有し、敷地内には木々や四季折々の花を植え、利用者様がいつでも自然と触れ合える環境を整えている。また、敷地内の掃除や散歩なども行うことができ、運動能力の改善等にも努めている。
- ・ 毎月、行事やイベントを開催したり、3~5回花見や買い物、近場を観光しにドライブへ出かけ、利用者様が楽しく心豊かな生活を送れるように努めている。
- ・ 看護師の職員を雇用し、且つ嘱託の医療機関と連携することで、看取り介護可能な体制を整えている。
- ・ 月に一度、ご家族様からの要望等を集める機会を設け、毎月実施するカンファレンスにて職員間で情報共有し、対応策などについて意見交換を行うことで、ご家族様の要望等をさらに反映させる業務改善を今年度10月から実施している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和5年12月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

住宅街にある事業所は平屋建ての1ユニットで、玄関前には桜の木があり、広い敷地内には軽費老人ホームがある。共用空間は、食事用テーブルの他に、南側に面したリビングにもテーブルと椅子があり、午後のひと時を各々好きな所で過ごされている。鮎が好きな利用者のために、庭で炭を起し塩焼きにして提供したり、花見やドライブ、買い物等、外出する機会を増やして楽しく過ごすことができるように配慮している。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、運営理念を唱和することで職員の意識づけを行い、理念に則り、和やかな雰囲気気を重視し、且つ利用者様毎に合わせたサービスを提供している。	開設時より掲げている地域密着の視点がある事業所独自の理念がある。朝礼時に、今月の取り組み目標と一緒に唱和し、理念を共有している。実践に向けて主体を利用者に置き、状況に合わせた声のかけ方や姿勢などに配慮して取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事・イベントでは、地域の子どもたちと交流できるような内容も取り入れている。また、近隣住民を法人役員とすることで多角的な意見をサービスに反映させるとともに、地域との繋がりを大切にしている。	コロナ禍前は地域のどんど焼き等に参加していたが、現在は行事が中止されている。併設施設へ保育園児が定期的に歌や踊りを披露に来るので、利用者も一緒に交流して楽しんでいる。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域事業所間で連携し、意見交換会などで当事業所であった事例等を紹介することで、地域事業所全体の支援の質向上延いては施設を利用する地域の人々の満足度向上に貢献している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度開催している。利用者様の状態やサービスの取組み等について報告している。事故報告やヒヤリハットについては、再発防止のため多角的な意見を求め、支援に生かしている。	2ヶ月に1回、家族や区長、民生委員、市介護福祉課、地域包括支援センターで運営推進会議を行っている。会議ではヒヤリハットや利用者状況等を報告し、意見をもらってサービスの向上に取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から事業所の実情やケアサービスの取り組みについて連絡し、当事業所に合った入居希望者を紹介いただくなどの協力関係を築いている。	市介護福祉課へ事業所の不備な点や取り組み等を相談したり、地域包括支援センターへ待機状況を報告して、行政との協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新採職員には必ず研修を実施し、また年に二回以上、内外問わず身体拘束についての研修に参加することで、職員の意識向上に努めている。また、当事業所は利用者様の意思を軸とし、自由と尊重を重視した介護の心がけており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関や居室の施錠はしていない。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添いを行っている。法人合同研修で身体拘束の内部研修を行っており、マニュアルや研修資料、研修報告を準備し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	内外問わず研修に参加することで、職員の意識向上を図る。また、日頃の申し送りやカンファレンスにて逐次利用者様の状態に気を配り、職員間で情報共有することで、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外問わず研修に参加することで、職員の知識習得及び意識向上に努めている。しかし、現在、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について関係者と話し合う機会を作れていない。	成年後見制度に関する制度については、契約時に家族に説明している。成年後見制度の外部研修を受講し、研修資料や研修記録を保管している。内部研修は1月に開催予定であり、制度を活用できるように知識を深める機会をもっている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や契約解除になる場合の注意事項について説明している。また、個人情報の取扱いや看取り介護等については同意も得ている。料金の改定があれば、随時説明を行い、同意を得るようにしている。利用者様やご家族様には契約時や料金改定時、その都度質問や不明な点を聞いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様の要望等は随時受け付けているが、よりサービスに反映させるため、今年度10月より月に一度意見書にて要望等を集める機会を設け、いただいた要望等を申し送りやカンファレンスにて職員間で情報共有・意見交換し、サービスの質の向上に努めている。	管理者や職員は、レクリエーションの時等の話しやすい雰囲気の中に、利用者とのコミュニケーションを図り、食べたい物や行きたい場所等を具体的に尋ね、運営に反映させている。家族はコロナ禍前は夏祭りや敬老会へ招いて交流の機会があったが、現在は意見書を郵送し、意見をもらって運営に活かしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員が意見しやすい雰囲気作りに努め、随時意見や提案を聞いている。週に一度、代表者と管理者による会議を行うことで、代表者は事業所の実情を把握し、意見や提案の反映を図っている。	管理者と職員が話し合い、自己評価に取り組んでいる。管理者は個別に話しやすい時間帯を選んで声をかけ、意見を言いやすいように工夫している。職員の悩みを聞き取ったり、吸引器やAED、掃除機等の要望に対して上司へ報告し、働きやすい環境作りを行い、職員の意見を取り入れて運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が各自で自己申告書を提出する機会を設け、実績に応じた賞与額を支給している。また、昇給や資格手当、福利厚生等も充実させ、やりがいや向上心を持って働ける職場環境・条件整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	経験や資格を考慮した上で、性別や年齢等に問わず、意欲のある人材を採用している。また、有給や特別休暇等の福利厚生を充実させ、取得しやすい職場雰囲気重視している。	採用にあたっては、年齢や性別等を理由に採用対象から排除していない。希望休の制限を設けず、休みの取り方の希望を聞いたり、有給も取りやすく、夜勤の回数等の希望を聞き、職員が働きやすい環境づくりに努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内外問わず研修に参加し、参加した職員はカンファレンス等、他職員に学んだ内容を説明する機会を設け、職員の意識向上を図る。	職員はグループホーム部会での人権研修に参加している。研修資料を保管し、啓発活動に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者及び管理者から職員へ研修参加を促し、職員が研修に参加しやすい職場環境に努めている。また、研修や業務に必要な資格取得にかかる費用は全て事業所負担としている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域事業所間でグループホーム部会を運営し、月に一度、各事業所の状況報告や研修の実施をしている。また、福岡県のグループホーム協議会等に入会しており、研修などに参加することで、ネットワーク構築及びサービスの質の向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を活用し、生活歴などの情報収集・把握に努めている。利用者様がいち早く安心して施設での生活に慣れるように、利用者様の希望等伺ったり、他利用者様との関係構築に助力している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の生活やご家族様の希望等十分に聞き、利用者様の変化にも気を配れるように努めている。また、面会時にはご家族様に状況報告を行うことでご家族様が安心できるように配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り本人同伴で施設見学に来ていただき、必要な支援の把握に努めている。ニーズによっては他のサービス事業所などの説明を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当事業所は、可能な限りの自立を支援し、自由な意思を尊重するようなサービス提供を徹底しており、利用者様が尊厳のある生活を送れるように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限りご家族様に利用者様の病院受診に付き添っていただいたり、生活に必要なものを購入・持参いただいたりしている。また、コロナ流行期でも面会や外出・外泊等一切制限せず、ご家族様に足を運んでいただいている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外の方と利用者様との面会を妨げることなく、面会簿を活用することで情報を控え、利用者様やご家族様にも安心できる体制を整えている。また、月に三～五回近場へドライブに行くことで、馴染みのある場所との関係継続を支援している。	利用者から馴染みの人や場所について聴取しており、ドライブで馴染みの場所の近くを通ったりしている。利用者の元職場の方や近所の方が訪問したりして、利用者が馴染みの人や場所と関係性が途切れないように支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活での利用者様の会話や関係性に常に意識を向け、職員間で情報共有・意見交換し、利用者様同士が安心して共同生活を送れるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて利用者様やご家族様の経過をフォローし、相談や支援に努めている。直近では、ご家族様より入所前に未判決だった裁判に必要な資料として、当事業所での記録の提供相談があり、資料を提供した。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントやサービス担当者会議にて利用者様本人の希望等を把握した上で、ご家族様の思いも取り入れながら介護計画の作成を行っている。	日頃利用者と接する様々な機会に利用者から意向や思いを聴き取りしている。聴き取りが難しい場合は、様々な場面で見せる表情から読み取っている。また、家族や以前の関係者から、入所前の情報を聴き取っている。聴き取りした情報等は連絡帳で共有している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	市役所へ情報請求し、また入所前から利用者様やご家族様と面談することで、生活歴などの情報収集・把握に努めている。また、入所後は、日常生活での行動などに気を配り、情報の正確性、環境の変化による状態変化を把握している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント、モニタリング、カンファレンス、申し送り等にて職員間で情報共有・意見交換を行い、現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月毎のカンファレンスの中で介護計画について職員全員でアセスメントしている。状態変化を捉え、また利用者様やご家族様の意向も把握し、課題に沿った介護計画を作成している。	担当制を採っており、担当者はモニタリング表に利用者について気付いた事等を記入している。家族からの聴き取りは随時行っている。医療情報は往診・受診時に得ている。担当者会議には全職員が参加して行っている。家族や利用者から介護計画への同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入や記録をモニタリングにも生かし、職員間で情報共有して介護計画を再アセスメントし、見直し改善に努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態変化に常に意識を向け、またご家族様の要望等を定期的集める体制を整えることで逐次ニーズを把握し、サービスに反映している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活歴などの情報を収集し、利用者様本人にとって大切なもの、生きがい等を把握し、日常的な行動やレクリエーションなどの中に取り入れている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二～三回、かかりつけ医が定期往診している。利用者様の希望のかかりつけ医が異なる場合は、定期往診や急な体調変化時、希望のかかりつけ医へ送迎・受診介助し、家族へ報告を行う支援をしている。	嘱託医による往診診療がほとんどであるが、他科受診等の際には利用者の状態・情報が確実に受診先に伝わり、診察時の情報や指示が確実に事業所に伝わるように、事業所スタッフが受診支援することを基本としている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師職員を雇用し、委託では把握しづらい日常的な気づきを捉え、逐次情報共有している。異変時は医師と連携して対応している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域連携室の担当者との情報交換し、またご家族様からも状態の経過を聴きくことで、退院後の受け入れ体制を整えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師職員とかかりつけ医が連携し、看取り介護が可能である旨や金額について説明し、早い段階で利用者様やご家族様に終末期のあり方について希望を伺うことで、もしもの事態に備えている。また、一度の聞き取りで終わることなく、利用者様の状態を見て終末期が訪れると見込まれる頃に再度希望を伺うなど、ニーズをしっかりと把握している。	入所時に指針に基づき事業所の方針について説明して同意を得ている。入所後、利用者の状態変化に応じて、その都度嘱託医から説明を受けている。看取り期には、改めて家族と今後について方針を確認している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に事業所へ出張講習を依頼し、職員全員で救急講習を受講している。また、救急講習では学べない内容は、消防署が開催している救命講習を積極的に受講することで、職員全員が基礎知識を身につけ、有事の際にも迅速かつ適切な対応ができるように備えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、船小屋荘と連携して避難訓練を実施している。また、年に一回、夜間の伝達訓練を実施している。水害時は市の指定避難場所へ避難する訓練も行い、地域との協力体制を築いている。また、避難できない事態を想定し、事業所内に備蓄品を保管し、リストを作成して職員全員に周知している。	防災マニュアルは火災・風水害・地震ごとに整備している。ハザードマップ上は水害のリスクが高い地域にあたるので、火災想定避難訓練に加え、水害に特化した避難訓練も行っている。フロア内に置かれているタンスについては、消防の指導を受けて振動対策をしている。災害時の備蓄品についてはフロア内に保管されており、保管ノートも整備されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念に則り、日頃から職員全員が利用者様の意思を尊重し、尊厳のある生活を守るようなサービスの提供を心がけており、且つ人権擁護研修等にも参加することで職員の意識向上に努めている。	年1回、プライバシー保護についての勉強会を行っている。記録の際、利用者名はイニシャルで記載している。排泄や食事などのチェック表は、外来者の目の届かないところに保管している。希望に応じて同性介助を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のいろんな場面で、職員は利用者様へどうしたいかなどの問いかけを常に行い、思いや希望を把握しながら支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「時間だから」や「みんなと一緒に」など強要することなく、利用者様のその日その日の思いを把握し、利用者様のペースに合わせた支援に努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整髪を行っている。また、三カ月に一度、訪問美容に依頼し、散髪を行っている。行事・イベントでは、普段よりも盛装して写真を撮っている。また、個人で化粧道具を持たれている利用者様には、好きなときにいつでも化粧ができるようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好も取り入れながら献立を立てている。食欲低下時は本人の好みに配慮したり、食べやすい形態にしている。また、利用者様と買い物へ行ったり、皮を向く手伝いなどをしていただくことで、食べるだけでは味わえない楽しさも感じていただいている。	食事は3食とも外注している。ご飯と汁物は事業所で作っている。食事に飽きが来ないように、事業所で調理したものを1品ほど毎食時、提供している。食事の好みは事前に把握しており、できるかぎり対応している。湯呑と茶碗と箸は家族に依頼し、自分の物を使用してもらっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食べやすい量や硬さ、体重の増加等を考慮して提供している。水分補給は好みの味を提供し、利用者様が無理なく水分補給をできるよう努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に二回、歯科衛生士が訪問し、口腔ケアを実施している。また、毎日、利用者様一人ひとりに職員が声かけを行い、歯磨きを促している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間はトイレ誘導や声かけし、オムツの使用を減らしている。夜間はトイレに起きられる方は、職員が必ず付き添い、案内している。	利用者一人ひとりの意向や状態に合わせて、清潔で安心、プライバシーの守られる安全な排泄を支援している。トイレのドアが閉じられることに恐怖感を持つ利用者のために、ドアの外にカーテンを取り付け、使用時にはドアを少し開けた状態にしてカーテンをしている。自身でトイレまで行く利用者のために、トイレ前の明かりを点け、排泄の自立に向けて支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や毎朝軽い運動を行うことで腸内活動を活発にし、便秘予防に努めている。また、準看護師職員を雇用しており、便秘の方で希望があれば、適切な排泄介助を施している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴時間やその日の入浴対象者をあらかじめ決めてはいるが、利用者様の希望に合わせて時間や入浴者を変更し、臨機応変に対応している。また、入浴自体を嫌う方には、強要することなく、入りたいと思うような呼びかけを行っている。	お風呂は毎日準備しており、利用者が週に2～3度、希望があればもっと入れるよう支援している。入浴を望まない利用者に対しては、言葉かけや対応の工夫によって、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。冬期には脱衣場や浴室を十分に暖めて案内している。今後はバスボードなどの利用も検討している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間はその日その日の利用者様の希望に合わせている。昼間は共用スペースや居室で自由に午睡や休息を取れるようにしている。夜間は利用者様に就寝の呼びかけをしたり、睡眠に配慮しながら見回りを行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の目的や副作用を理解しており、利用者様一人ひとりに適した用法や用量を把握している。服薬時は必ず職員二名以上で確認し、誤薬を防いでいる。服薬後の状態については、申し送りにて毎日情報共有を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや片付け、モップがけ等の手伝いなど、その方が好まれる仕事を役割としている。また、レクリエーションや映画・音楽鑑賞を毎日取り入れたり、時折ドライブにて観光や好きなお菓子を買っていくなどの気分転換等の支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	広大な敷地を利用し、いつでも散歩をすることができ、その都度職員が付き添っている。また、月に三～五回、花見や買い物、近場を観光しにドライブへ出かけることで、利用者様が常に楽しく心豊かな生活が送れるように努めている。また、時には外食レクを企画し、外出支援とともに食事も楽しめるような工夫を取り入れている。	散歩は天候に応じて日常的に行っている。敷地が広いので、利用者が屋外に出ても直ぐに戻らず、利用者が外の雰囲気を楽しめるよう見守っている。買い物へは週に1～2度出かけており、ドライブは季節の花を見物に出かけ、帰りに道の駅に寄って、外出の雰囲気を味わってもらっている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様やご家族様より、本人にお金を持たせたいと希望があれば、紛失の可能性等注意点を説明した上で希望に応じ、職員全員で可能な限り紛失防止に努めている。また、買い物時には職員が付き添い、本人が自身のお金を使って買い物ができる支援を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様やご家族様の希望があれば、本人に携帯電話を持たせ、好きなときに使用できるようにしている。また、ご家族様から利用者様あて電話があれば、職員が取り次ぎ本人が話せるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が日中座られている共有スペースは南向きとなっており、日当たりがよい。また、施設の壁には、利用者様が折り紙等で作った季節を感じられる飾りを飾りつけ、居心地が良く、季節感のある空間づくりに努めている。また、時折、利用者様が敷地内の花を摘んできた場合、花瓶に入れて飾っている。	フロアは食堂スペースと団らんスペースに分かれている。フロア内は陽射しが入り、明るく温かである。フロア内の随所にソファが置かれており、利用者は思い思いにソファを自分の場所としてくつろいでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには椅子やソファを数カ所に配置し、利用者様のお気に入りの椅子や場所が利用できるように配慮している。また、ソファでは気の合う利用者様同士が座り、お話を楽しんでいる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が使い慣れた家具や嗜好品等を持ち込んでいただき、利用者様が安心でき、居心地の良い空間となるように工夫している。また、備え付けのものは落ち着いた色味のものにするなど配慮している。	居室のドアは引き戸の吊り戸となっており、車いす利用者も段差が無く出入りしやすい。またドアの小窓はスリガラスになっているため外から室内の様子は見えないようになっている。ベッドは利用者の身体状況や動線に応じて配置されている。面会者用にテーブルと椅子を持ち込んでいる利用者もいる。畳の生活に慣れている利用者は畳の上に布団を敷き、寝起きしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	排泄が自立されている方は居室の傍のトイレを使用していただき、夜間も職員が付き添い、トイレの使用を支援している。また、食事席は固定席とし、本人の覚える能力を生かし、声かけに応じて自ら自席に座られる支援を行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない